

〈概要版〉

通常の学級に在籍する特別な支援が必要な児童への 学習指導の在り方

— 個別の指導計画を基にした授業づくりの工夫を通して —

長期研修Ⅰ 研修員 金子 三代子

特別支援教育2年目になりました。現状は？

一斉授業を進める上で、特別な支援が必要な児童生徒のことで困っていることはありませんか？



学習ルールが
なかなか身に
付かない

指示や説明が
うまく伝わら
ない

友達と一緒に活
動することが難
しい

漢字学習は得意だけ
ど人物の気持ちの読
み取りができない

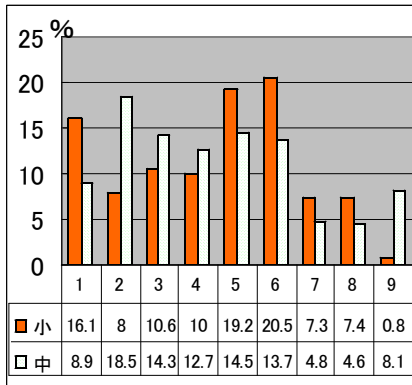
学習に集中する
ことが難しい

本研究では、県内の先生方が一斉授業を進める上で、どんな点に難しさを感じているのか調べてみました。

群馬県内の通常の学級に在籍する特別な支援が必要な児童生徒に対する一斉授業での支援の状況調査

平成20年8月、県内の公立小中学校の約2割（小学校338校のうち73校、中学校172校のうち32校。各学年1名の担任が回答）を対象にアンケート調査を実施。

一斉授業を進める上での難しさ



1 困っている状況の理解と対応
2 情報の伝わりやすい提示や働きかけ方
3 分かりやすい教材・教具の選択・作成
4 興味・関心を引き出す課題設定
5 注意集中を継続する授業構成や手だて
6 個別支援のタイミングや時間確保
7 学習ルールの理解を促す手だて
8 子ども同士の関わりを促す学習の進め方
9 その他

一斉授業を進める上での難しさについては小学校と中学校の回答に違いが見られた。

小学校で最も多いのは「個別支援のタイミングや時間確保」（20.5%）で、中学校は「情報の伝わりやすい提示の仕方や働きかけ方」（18.5%）であった。

ここでは、小中学校共に注意集中を継続する手だてなど、具体的な手だてを見出すことが難しいという課題が見られる。

個別の指導計画の調査結果について

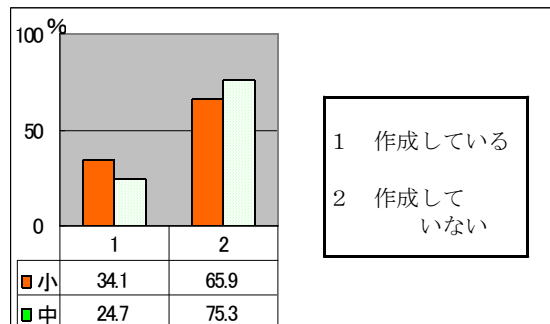
文科省の特別支援教育体制整備状況調査結果（平成20年3月付）では、「今後は個別の指導計画の作成が課題となっている」と述べています。

では、県内の個別の指導計画の作成状況はどうでしょうか？



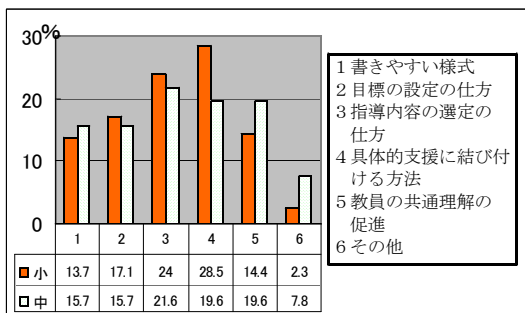
グラフのように小中学校共におよそ3割ということが分かりました。

個別の指導計画の作成状況



個別の指導計画作成状況についての内訳

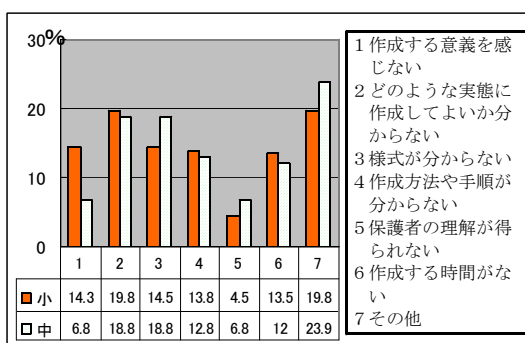
個別の指導計画を作成・活用する上での課題



小学校は「個別の指導計画を継続的な具体的支援に結びつける方法」が最も多い。個別の指導計画を作成したが、どのような場でどのように支援と結びつけたらよいか困っているようだ。

中学校は「目標を達成するために必要な指導内容の選定の仕方」が最も多い。各教科の目標を達成させるためにどのような指導内容を用意したらよいか困っているようだ。

個別の指導計画を作成していない理由



作成していない理由は、小・中学校共に「どのような実態の児童生徒に用意したらよいか分からない」「どのような様式のものを使ったらよいか分からない」「作成方法や手順が分からない」という結果だった。

『その他』の内訳では「作成する時間がない」「対象児童が多すぎて対応しきれない」という回答が多く、多忙な現場の教師の率直な声が上がってきている。

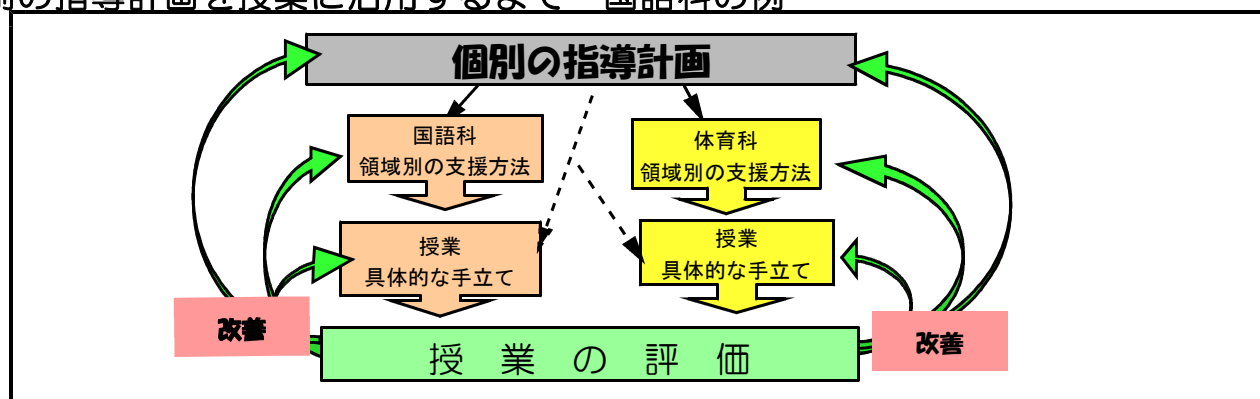
考察

○個別の指導計画の作成が、3割という低い数値になっている。学校現場の現状を考えると作成する意義は感じていても、どのように作成したらよいか分からなかったり作成・検討する時間がなかったりするということであろう。

しかし、目の前で困っている児童生徒に対してどんな支援をしたらよいか場当たりの対処方法ではなく、児童生徒の実態に即した指導目標や指導方法などを導き出し、分かりやすい授業づくりの工夫へとつなげるためには、個別の指導計画を作成して、計画的な支援を行う必要があると考える。

個別の指導計画を基にした授業づくり

個別の指導計画を授業に活用するまで～国語科の例～



個別の指導計画（一部抜粋）

長期目標	(略)
短期目標	(略)
学 習 面 の 実 態	支 援 の 方 法
(略)	①指示や説明は短くはっきりと伝える。 ②話しかける前に注意を引きつけて、話をする人の方へ耳を傾けさせる。さらに個別の指示を行う。 ③掲示はカードや絵・写真を活用し工夫する。 ④興味をもち続けられるような授業の流れを工夫

国語科の領域別の支援方法

領域	実 態	支 援
話す聞く	(略)	・大事なことを落とさないように指示を徹底させるために、視覚的に分かるようなカードで示したり要点を短くはっきり伝えたりする。 国①-1 国②-1 国③-1
書く	(略)	・作文では、文章を書きやすくする絵やワークシートを用意して、見たこと聞いたことを基に書くことができるようにする。 国③-2 国④-1 ・感想文では、必要な項立てを示したカードなどを提示して、感じたことや考えたことなども書けるようにする 国③-3 国④-2
読む	(略)	・心情的な面の把握や文章の要約などでは、場面にそった挿絵やキーワードとなる文字カードを提示したり、動作化を取り入れたりして読みの理解を深め広めていくようにする。 国①-2 国②-2 国③-4 国⑤-1
言語事項	(略)	(他の児童と同様)

国語科の単元Aにおける支援方法

目標	◎キーワードに着目して登場人物の様子や気持ち想像しながら読む。
指導方針（○は対象児 ●は学級全体）	○指示が伝わりやすいように、指示は短く、肯定的な表現で行うようにする。曖昧な指示は避けるが、場合によっては細かい指示や説明も考えられるので、その時はイメージしやすい形（例えば簡単な文字や絵など）で伝える。 国①-2 国②-3 国③-2 ○注意集中の継続を促すために、1時間の学習の見通しがもてるように学習の簡単な流れを毎時間掲示しておく。また、覚えておく必要のある説明や課題は、文字カードに掲示して確認できるような工夫を行う。 国③-2 ④ ○場面ごとの登場人物の気持ちや情景を読み深められるように、以下のような3種類のワークシートを用意して児童に自由に選択させる。 国⑤-2 (黄ワークシート) 登場人物の気持ちを吹き出しに書き込む。(青ワークシート) ヒントを参考にして登場人物の気持ちを吹き出しに書き込む。(赤ワークシート) 登場人物の気持ちが書いてある選択肢を選び吹き出しに書き込む。 ●毎時間の学習の取組はどうだったか「ふりかえり」の時間を設定し自己評価していく。

本時の授業

おもしろそうだ
少してきたぞ

授業実践のまとめ

- 授業実践を国語科・体育科において取り組んだ。両方の教科共、一斉授業において個別の指導計画を基に計画的・継続的に支援を行った。
対象児の特性を考慮して、下記のような手だてを投入した。

工夫の観点	具 体 的 な 内 容
ア. 指示・説明の出し方の工夫	○注意を引きつけて、短く分かりやすい言葉で話す。 〈共通〉 ○話の内容が推測できるように、最初にタイトルを伝える。 〈国〉
イ. 視覚的な手がかりの提示の工夫	○授業の目当てや流れを板書したり文字カードで示したりする。 〈共通〉 ○キーワードとなる場面や文を文字・絵カードで示す。 〈国〉
ウ. 興味を持続させるための教材の工夫	○3種類のワークシート【(黄) 吹き出しのみ、(青) ヒントの提示、(赤) 選択肢の設定】から、自分に合ったものを選ぶ。 〈国〉 ○下記の三つのゲーム型スキルトレーニングを取り入れる。 〈体〉 【ドリブル合戦・チームで風船蹴りゲーム・ドリブルおにごっこ】
エ. ルール理解のためのスモールステップ化の工夫	○サッカーの試合に入る前に、サッカーの攻守やルールなどを体得するための前段階としてハーフコートでサッカーゲームを行う。 〈体〉 ○サッカールールを体得するために、児童自身がルールを一つずつ決めてルールの追加を行う。 〈体〉
オ. 手順が分かり、見通しがもてる工夫	○ゲームがスムーズに進むように、手順や見通しを「作戦カード」に記入して、グループごとに話し合う時間を設ける。 〈体〉

実践の結果

- 授業のポイントごとに指示や説明のタイミングを図り、注意集中を促すようにしたために、意欲が持続し大事な説明を最後まで聞く姿が見られた。
○視覚的な手がかりや興味のある教材を取り入れたために、集中力が高まり登場人物の心情を考え出すことができた。
○自分たちで決めたルールを守っていこうとする姿が見られ、チームの友達と楽しくサッカーゲームを行うことができた。



わかった
できた
もっとやりたい

生き生きと取り組む姿が見られました。

まとめ

- 個別の指導計画を作成すると、特別な支援が必要な児童の状態像が明確になり、計画的・意図的で適切な支援の方法が見えてくる。
○個別の指導計画から各教科の領域の支援方法を導き出すと、授業における具体的な手だてを比較的容易かつ適切に導き出すことができる。
○個別の指導計画を基にした授業づくりは、特別な支援が必要な児童が達成感や成就感を味わうとともに、学級全体にも相乗効果が見られる。